

# 日本の消費者物価、10月3.6%上昇 40年ぶり伸び率

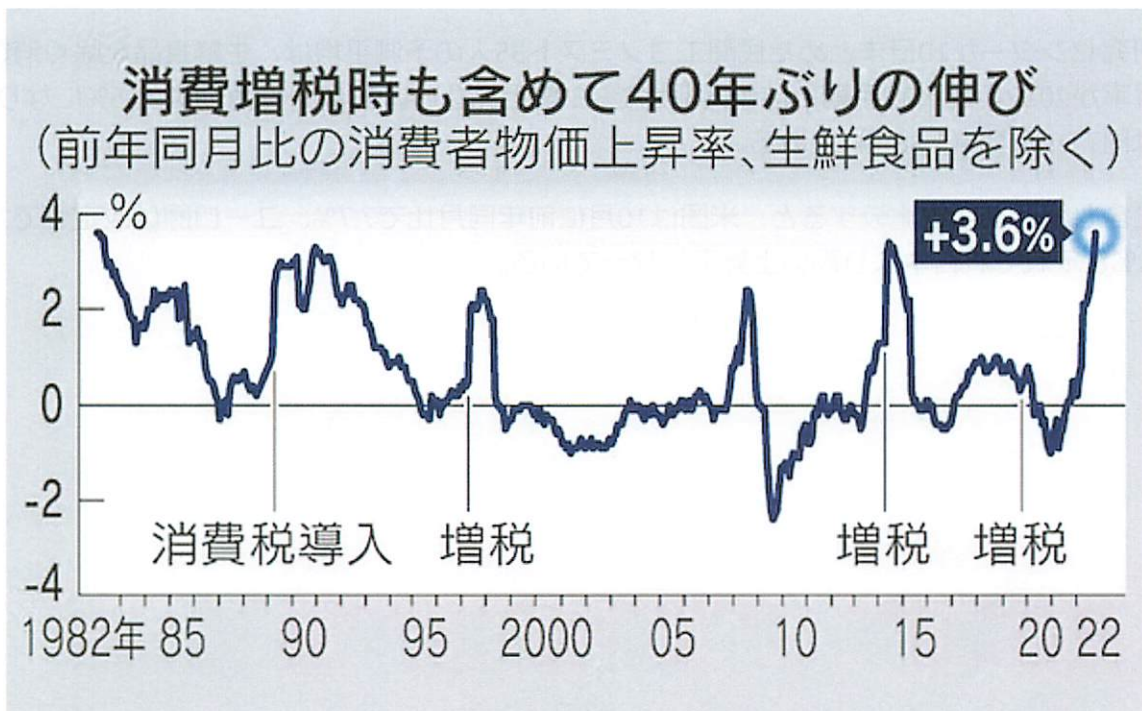
物価高・値上げ

2022年11月18日 8:32 (2022年11月18日 11:25更新)



Think!

伊藤さゆりさん他1名の投稿



総務省が18日発表した10月の消費者物価指数（CPI、2020年=100）は変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が103.4となり、前年同月比で3.6%上昇した。伸び率は消費増税時も上回り、1982年2月（3.6%）以来40年8カ月ぶりの幅となった。円安や資源高の影響で、食料品やエネルギーなど生活に身近な品目の値上がりが続く。



QUICKが事前にまとめた市場予想の中央値（3.5%）を上回った。上昇は14カ月連続。調査対象の522品目のうち、前年同月に比べて上がった品目は406、変化なしは42、下がったのは74だった。上昇品目数は9月の385から増加した。

生鮮食品を含む総合指数は3.7%上昇し、消費増税の影響を除くと91年1月（4.0%）以来31年9カ月ぶりの伸びだった。生鮮食品とエネルギーを除いた総合指数は2.5%上がった。同じく増税の影響を除くと92年6月（2.7%）以来30年4カ月ぶりの上昇率で、2%台になったのは92年12月（2.1%）以来となった。

品目別に上昇率を見ると、生鮮を除く食料は5.9%、食料全体では6.2%だった。メーカーが相次ぎ値上げしている食用油が35.6%、スパゲティが19.5%、チョコレートが10.0%と目立つ。酒類はマイナス0.2%だ

った9月から5.0%のプラスに転じた。

エネルギー関連は15.2%だった。9月（16.9%）から縮小したものの、13カ月連続で2ケタの伸びとなった。都市ガス代が26.8%、電気代が20.9%上がった。ガソリンは価格抑制の補助金効果もあって2.9%と、9月の7.0%から下がった。

家庭用耐久財は11.8%で、ルームエアコン（13.3%）などの値上がりが影響した。9月にマイナス14.4%だった携帯電話の通信料は1.8%のプラスに転じた。前年の値下げの効果がなくなった。

サービスは0.8%上昇した。消費増税の影響を除くと98年8月以来、24年2カ月ぶりの伸び率となった。

日本経済研究センターが10日まとめた民間エコノミスト35人の予測平均は、生鮮食品を除く消費者物価指数の上昇率が2022年10～12月期に前年同期比で3.23%と見込む。23年1～3月期は2.55%になり、1%台に戻るのは同7～9月期（1.46%）とみる。

生鮮食品を含む総合指数で比較すると、米国は10月に前年同月比で7.7%、ユーロ圏は改定値で10.6%、英国は11.1%とそれぞれ日本より高い上昇率になっている。